



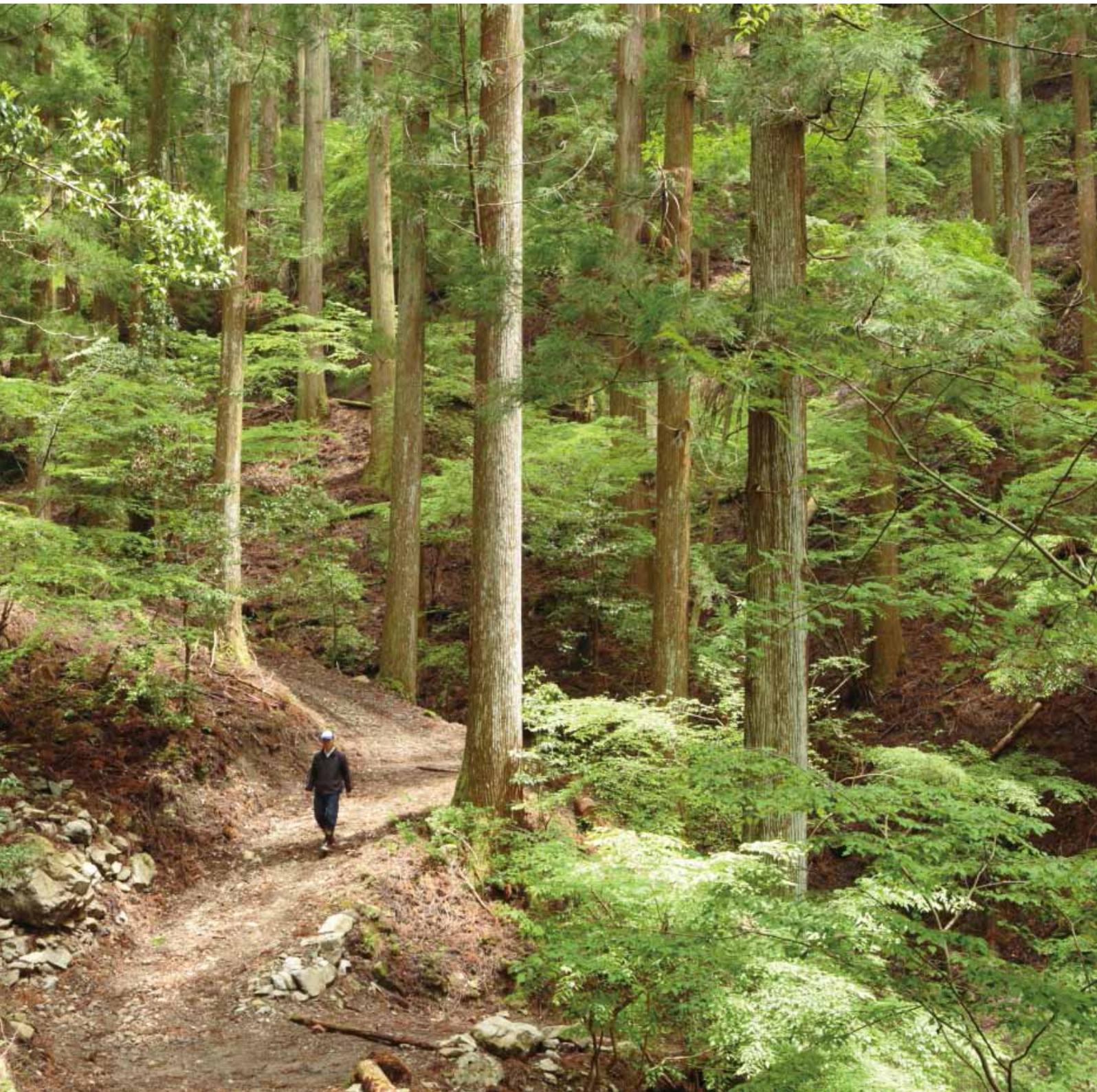
- RINYA -

6

2021
No.171

特集

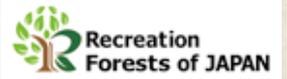
令和2年度 森林・林業白書が公表 ～森林を活かす持続的な林業経営を特集～



詳細については「日本美しの森 お薦め国有林」のウェブサイト
(http://www.rinya.maff.go.jp/j/kokuyu_rinya/kokumin_mori/katuyo/reku/rekumori/)をご覧ください。



「^{にっぽん}日本美しの森 お薦め国有林」のご紹介



げとう 夏油高原野外スポーツ地域／夏油自然観察教育林 (岩手県北上市)

【概要】

夏油高原野外スポーツ地域と夏油自然観察教育林は、岩手県南西部の奥羽山脈に位置し、積雪深が5mにも達する豪雪地域にあります。野外スポーツ地域内には夏油高原スキー場があり、12月頃から5月上旬頃まで楽しむことができます。また、夏油自然観察教育林には、北上川の支流である夏油川の浸食でできた深い峡谷があり、周囲はブナを主体とする天然の落葉広葉樹林に覆われるなど自然の豊かさを感じさせてくれる一方、山麓には山深さから秘湯と称される夏油温泉郷の宿が建ち並び、歴史を感じる佇まいを見せています。

【見どころ】

夏油高原スキー場は、岩手県南部随一の規模と寒冷地ならではのパウダースノーを誇り、初心者から上級者まで楽しめる多数のスキーコースのほか、スノーモビルコースや天然林内を滑走できる上級者向けの林間コースが設けられています。また、スノーシュー（西洋かんじき）で雪原や林間を歩くハイキングツアーも行われています。スキーセンター内では露天風呂や展望サウナ等の温泉入浴施設から雪山の絶景を堪能することもでき、スキー営業期間外にも紅葉祭り等四季を通じて楽しむことができます。

夏油自然観察教育林は栗駒国立公園内の山々へ続く登山道の玄関口になっています。標高が上がるにつれ、ブナ林からダケカンバ林へと植生が移り変わり、稜線付近では高山植物が観られるなど、多様な植生を目にすることができます。また、夏油川の川底には、温泉由来の炭酸カルシウムが沈着した「石灰華^{せつがい か}」が見られ、国の天然記念物にも指定されています。登山や森林散策のあとは、野趣あふれる露天風呂で峡谷美を楽しみながら疲れを癒やしてはいかがでしょうか。

北上市ウェブサイト

<https://www.city.kitakami.iwate.jp/life/kitakamishinoshokai/kitakamishinokanko/index.html>

【アクセス】

〈車の場合〉

秋田自動車道（北上西IC）→（一般道：約25分 約18km）→（夏油高原野外スポーツ地域）

→（一般道：約20分 約9km）→夏油自然観察教育林

〈公共交通機関の場合〉

JR北上駅→（夏油高原スキー場シャトルバス 約50分）

→夏油高原野外スポーツ地域（スキー営業シーズン中のみ）



ブナ林（自然観察教育林周辺）



スキーリフトからの紅葉風景
(夏油高原スキー場提供)



夏油温泉（自然観察教育林）



6 2021
No.171

Contents

- 03 **特集** 令和2年度 森林・林業白書が公表 ～森林を活かす持続的な林業経営を特集～
- 08 TOPICS 01 山地災害防止キャンペーン！～防災は 治山と避難の 合わせ技～
- 10 TOPICS 02 第30回 森と花の祭典ー「みどりの感謝祭」“感じよう みどりの恵みと 木のぬくもり”
- 11 TOPICS 03 「作業安全のための規範」の策定等について
- 12 新しい時代の森林・林業を支える林木育種 エリートツリーの開発と「特定母樹」の指定
- 14 林業成長産業化地域創出モデル事業② 徳島県南部地域 県南部の林業成長産業化と森林管理の新たな取組
- 16 国有林野事業の取組 虹の松原におけるクロマツの再生・保全の取組
- 18 TOPICS 04 ウッドデザイン賞の募集始まる
- 19 みどりの女神が行く！

【お詫びと訂正】
5月号の記事において、記載内容に誤りがありました。
＜訂正箇所＞4頁 3段落目4行目
上松町のふりがな
(誤)あげまつちょう
(正)あげまつまち

【表紙の写真】
間伐を6回実施した100年生超の森林
(令和2年度森林・林業白書)



水害防備保安林
と霞堤（福島県）

次世代型ハーベスタ
（岩手県一戸町）



コンゴ民主共和国における
アグロフォレストリー活動
への支援



ヒノキ大径材
（中部森林管理局）

特集

令和2年度 森林・林業白書が公表

～森林を活かす持続的な林業経営を特集～

6月1日、「令和2年度森林・林業白書」（令和2年度森林及び林業の動向・令和3年度森林及び林業施策）が公表されました。

森林・林業白書では、国民の皆さんに理解を深めていただけるよう、図表、写真等をふんだんに盛り込み、森林・林業・木材産業の動向を体系的に分析することを心掛けています。今回、実際の白書の構成に沿って、その内容を紹介します。



高惣木工ビル
（宮城県仙台市）
（写真提供：ヴィブラ
フォト／浅田美浩）



中央大学多摩キャンパス
FOREST GATEWAY
CHUO
（東京都八王子市）



木製ブロック スレンガ
（ウッドデザイン賞
2020 奨励賞）

トピックス

「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」施行 10 年を迎えて

法律の施行から10年を経て、公共建築物の木造率は低層のものを中心に増加したこと、非公共の建築物においても木材利用の機運が上昇し、中高層建築物で木造の事例が増加したことを紹介しています。

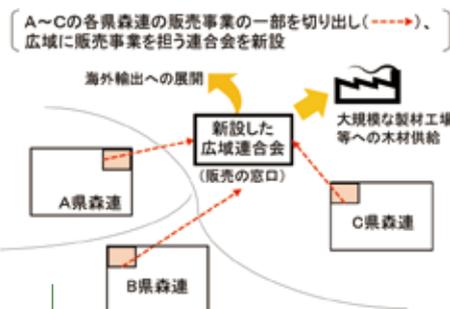


↓ 白鷹町まちづくり複合施設（山形県）

経営基盤の強化を目指す森林組合法の改正

2020年5月に森林組合法が改正され、2021年4月1日に施行されました。この改正では、①組合間の多様な連携手法の導入、②正組合員資格の拡大、③事業の執行体制の強化を柱としています。

＜新設分割の例＞



↓ 組合間の多様な連携手法の導入(イメージ)

森林環境譲与税を活用した取組状況

森林環境譲与税を活用した取組が始まっています。2019年度には、市町村の5割が意向調査や間伐等の森林整備関係の取組を実施しました。また、林業技術者や森林ボランティアなど人材の育成、木材利用のほか、地方自治体間で連携した森林環境教育など地域の実情に応じた取組が展開されています。



↓ 森林環境譲与税を活用して間伐された様子

先端技術を活用したスマート林業等が進展

労働負荷の低減や生産性の向上、作業員の安全確保に向けスマート林業を推進することが重要です。造林作業機、架線集材機の開発状況や森林内の通信網・連絡体制づくり等を紹介しています。



↓ 乗用型造林作業機による下刈り作業

令和2年7月豪雨による山地災害等への対応

「令和2年7月豪雨」により、九州地方を始め全国で甚大な被害が発生し、林野関係の被害額は43道府県で合計約970億円となりました。被害状況や林野庁の対応を紹介しています。



↓ 豪雨による山地災害

東日本大震災で被災した海岸防災林の再生

東日本大震災から10年が経過し、津波により被害を受けた海岸防災林の多くは、2020年度末までに苗木の植栽等が完了しました。今後は、植栽した苗木を育てていく必要があります。



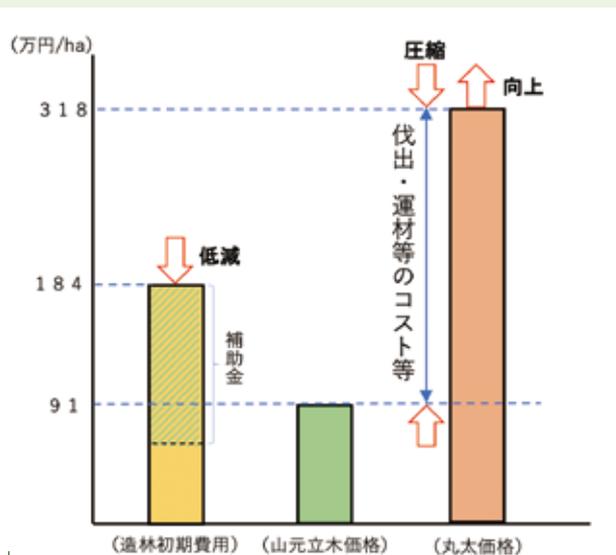
2011年3月

2020年10月

東日本大震災直後(左)と現在(右)の仙台湾沿岸部 (写真提供: 一般社団法人東北地域づくり協会)

「森林を活かす持続的な林業経営」

冒頭では、森林の多面的機能の発揮や山村振興における林業経営の重要性や課題を整理しました。現在の山元立木価格は森林所有者の再造林意欲を引き出すには十分ではなく、林業経営体が収益を確保し、山元への利益還元や林業従事者の所得等の処遇改善につなげていくことが重要です。



素材生産の収支構造イメージ

図の説明：山元立木価格（中の緑色）を引き上げるには、①丸太価格（右のオレンジ）を引き上げること、②丸太価格の中の伐出・運材等のコストの圧縮が必要。さらに、造林初期費用（左）を下げることを通じて、山元への利益還元（山元立木価格から左の黄色部分を引いた額）を図る、という方向性。



単木を識別し、蓄積等を把握できる航空レーザ計測



プロセッサによる造材



製材工場への安定供給（宮崎県日向市）

令和2年度は、「森林・林業基本計画」の改訂に向け、林政審議会で議論を重ねてきたため、その検討内容を紹介しながら、まず、林業経営体の販売力の強化について、安定供給体制の構築や顔の見える木材での家づくり、収入の多様化等の取組を紹介しています。次に、生産・流通コストの低減について、高性能林業機械の稼働率向上等に必要となる施業地の確保・集約化、作業システムの選択、工程管理、路網整備等の取組を紹介しています。また、造林・育林の低コスト化の取組として、伐採と造林の一貫作業システム、低密度植栽、下刈り省力化、エリートツリーの活用等のほか、ICTの活用や新たな林業機械の開発、人

コラム

自伐型林業等の森林施業方法

木材の生産量の少ない林業経営体の場合、高価な林業機械を導入しても稼働率を高めることは難しく、採算性を高められないので、事業量に合わせて設備投資の少ない施業システムを用いることが合理的です。林内に敷設した作業道で2トントラックや林内作業車が原木を搬出・運搬するなどの自伐林家・自伐型林業向けの施業システムを紹介しています。



未舗装の作業道で小型のトラックが間伐材を運搬

材の育成・確保や体制整備の取組も紹介しています。特集1のまとめでは、これからの林業の収支構造を試算しています。「近い将来」の収支試算では、現在でも導入可能な技術を積み上げていくことで黒字化することを示すとともに、「新しい林業」では、エリートツリーの植栽や自動化林業機械の導入などにより、短伐期で黒字幅の拡大が見込めることを紹介しています。それぞれの林業経営体が創意工夫して、持続性を高めながら成長発展していくことを期待されます。

特集2

「新型コロナウイルス感染症による 林業・木材産業への影響と対応」



新型コロナウイルス感染症が我が国の林業・木材産業に与えた影響とそれに対する政府の対応について整理しました。2020年1～3月頃には中国向け丸太輸出が停滞し、輸出が盛んな九州などで丸太が港や土場などに滞留しました。4月以降は製材・合板工場の減産による原木入荷制限のため素材生産が縮小を余儀なくされ、6月にはスギ中丸太価格は前年同月比1割減となりました。その後は出材減少を受けて価格は回復傾向にありますが、新型コロナウイルス感染症の流行は未だ収束しておらず、木材需給の先行きも不透明な状況にあります。

林業・木材産業関係の主な対策	
経営の継続	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 経営継続補助金 ▶ 持続化給付金 ▶ 雇用調整助成金 ▶ 農林漁業セーフティネット資金の実質無担保・無保証人による融資 ▶ 債務保証に係る保証料の免除 等
資金繰り支援	
需給調整等	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 原木生産を伴わない森林整備 ▶ 国有林の立木販売の一時延期や搬出期間の無償延長 ▶ 輸出原木保管等緊急支援 (滞留する原木を一時保管する際の掛かり増し費用を支援) 等
減少した 需要の喚起	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 過剰木材在庫利用緊急対策 (行き場のなくなった輸出向け原木を有効活用するため、公共施設等における木材利用を支援) ▶ 大径原木加工施設整備緊急対策 (大径材を有効活用し、付加価値の高い木材製品に転換するための加工施設の整備を支援)

第一章

「森林の整備・保全」



森林環境譲与税を活用した公共施設の内装木質化 (愛知県一宮市)

森林の整備・保全の動向や国際的な取組について記述しています。特に、森林経営管理制度と森林環境譲与税の取組状況について、事例を交えて紹介しています。

また、2050年カーボンニュートラルとの関係、本年3月に成立した間伐等特措法、「国土強靱化のための5か年加速化対策」などを紹介しています。

第二章

「林業と山村(中山間地域)」



森林ガイドによるセラピーウォーク (長野県小海町)

林業や特用林産物、山村(中山間地域)の動向について記述しています。

森林組合法の改正については、改正のポイントを丁寧に紹介するとともに、特に販売の実務経験のある理事による取組などの事例を紹介しています。

第三章

「木材需給・利用と木材産業」



木造7階建てビルに使われているスギ製材の「束ね柱」

木材需給、木材利用と木材産業の動向について記述しています。特に、非住宅・中高層分野における木材利用について、企業、団体等が連携し、課題解決を図る事例を写真を交えて記載しています。

また、国産材供給量が約3,100万立方メートルまで増えてきたこと、木材自給率が9年連続上昇し37.8%になり、製材用材では5割を越えたこと、木材の輸出は前半苦戦したものの輸出額は前年比3%増となったことなどを紹介しています。

第四章

「国有林野の管理経営」

国有林野の役割や国有林野事業の取組について記述しています。

具体的には、公益的機能の発揮を重視した複層林・針広混交林への誘導や長伐期化、生物多様性の保全のための「保護林」や「緑の回廊」の取組、林業の



安全管理と6次産業化の取組
(福島県いわき市)



木造災害公営住宅 (福島県飯舘村)
(photo by Nao Takahashi)

東日本大震災の発生から10年が経過し、これまでの復旧・復興に向けた取組を振り返り記述しています。

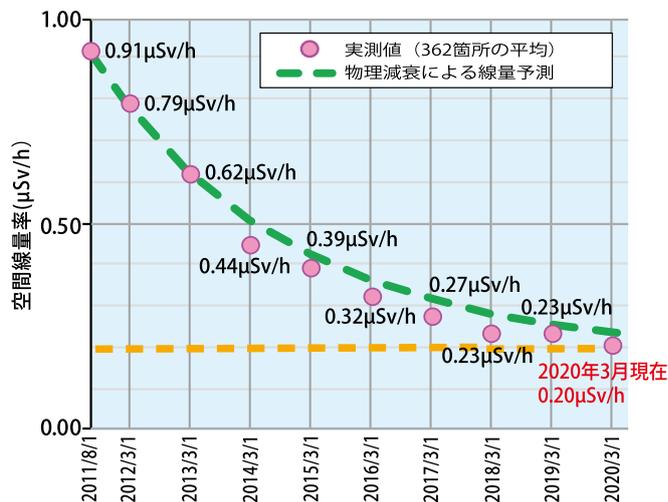
「東日本大震災からの復興」

第V章



エゾシカ対策による植生回復状況
(上：2012年、下：2020年)

成長産業化に向けた一貫作業システム等の低コスト化技術の開発・普及、民有林と連携した共同施設団地の設定、「国民の森林」としてNPO・学校・企業等へのフィールドを提供していることなどについて紹介しています。



福島県の森林内の空間線量率の推移

森林内の空間線量率は、年月の経過とともに低下

津波により被災した海岸防災林については、約1.45 kmで苗木の植栽等が完了しています。また、被災地域での素材生産や木材製品の生産は概ね震災前の水準まで回復しています。復旧・復興に当たっては、応急仮設住宅、災害公営住宅、公共建築物等で木材が活用されました。

一方、かつてきのこ原木の一大産地であった福島県阿武隈地域等では、原木生産が回復できていません。林野庁では、2011年度から原木の安定供給

に向けて需給のマッチング等を推進しています。また、しいたけ原木生産のため、里山の広葉樹林の計画的な再生に取り組んでいます。

森林・林業白書の本文については、林野庁のウェブサイトに掲載しています。詳しくは、以下のリンクを御覧ください。
<https://www.rinya.maff.go.jp/j/kikaku/hakusyo/R2hakusyo/>



東日本地域 (北海道を除く 17 都県) におけるしいたけ生産量の推移

原木しいたけの生産は現在も回復していない一方、菌床しいたけの生産はおおむね震災前の水準まで回復



山地災害防止キャンペーン！ 防災は治山と避難の合わせ技！

我が国では、毎年2,000箇所以上で山地災害が発生し、人命や財産に大きな被害をもたらしています。

林野庁では毎年、山地災害の起こりやすい梅雨の時期に、国民の皆さまに山地災害防止に対する理解と関心を深めていただくことを目的とした「山地災害防止キャンペーン」を実施し、さまざまな活動を進めています。

山地災害の多い日本

日本の国土は、険しい山が続く複雑な地形をしており、川幅は狭く、急流が多いという特徴があります。また、大陸プレートと海洋プレートの境界に位置しており、地震や火山活動も活発であるため、山崩れや土石流、地すべりなど、山地災害の危険を常に抱えています。

さらに、日本の年間降水量は約1,700ミリで、これは世界平均の約2倍ときわめて雨が多く、特に梅雨期や台風の際は局地的な集中豪雨が起こ

り、各地に大きな災害をもたらしています。また、雪どけ期には、河川の増水やなだれの危険も高くなります。加えて近年は、地球温暖化による影響等により局地的な集中豪雨が増加しています。

このような条件にある我が国では、山崩れや土石流、地すべりなどの山地災害が、ある日突然やってきます。自らの生命と財産を守るため、日頃から防災への理解と関心を深めるとともに、災害に対する備えをしておくことが重要です。

そこで林野庁では、5月20日(木)～6月30日(水)に「防災は治山と避難の合わせ技」を標語として掲げた「山地災害防止キャンペーン」を実施し、各都道府県・市町村と連携して、山地災害の未然防止や少しでも被害を軽減させるためにさまざまな活動に取り組んでいます。

主な活動内容

林野庁では都道府県及び市町村と連携し、山地災害の未然防止等を目的



令和2年2月に発生した地すべり災害
(富山県中新川郡立山町)



令和2年7月豪雨災害(山腹崩壊)による住宅被害
(岐阜県高山市)



豪雨災害の応急復旧等の検討会に林野庁職員を派遣



ヘリコプターによる被害状況等調査



山地防災ヘルパー等を対象とした研修会



子ども会を治山施設に案内

とした広報活動として、住民の方々の目にとまりやすい公共施設等における啓発ポスターの掲示、地域の危険地区の周知や、小学校等での防災教室の開催、注意を促すパンフレットの配布等を行います。また、治山事業の重要性を知っていただくために、事業施工地の見学等を開催して、防災への意識の普及・向上を図ります。

さらに、保安林[※]制度の周知や保安林の巡視などにより、保安林の機能が発揮されるよう適切な管理を推進します。

なお、昨年引き続き新型コロナウイルス感染症対策が重要となつているため、見学会等については、新型コロナウイルス感染症防止対策を講じて実施します。



山地災害対策パンフレット

まずは山地災害危険地区等を知ることが大事

山地災害による被害発生を防止するためには、地区住民の皆さんが日頃から身近にある山崩れや土石流、地すべりなどの起きやすい危険な場所や、台風や大雨の際の避難場所を知っておくことが重要です。

各都道府県等では、山地災害発生のおそれがある場所を「山地災害危険地区」として把握するとともに、日頃から治山施設の点検等の山地防災パトロールを実施しており、この情報を避難場所などの防災情報とともにホームページや防災マップに掲載して、地域の皆さんの防災活動や避難に役立てられるようにしています。

「山地災害防止キャンペーン」では、こうした情報をより多くの方に役立てていただけるよう活動に取り組むとともに、災害発生時の警戒避難体制の整備に努めます。

※ 保安林とは、水源の涵養、土砂の崩壊その他災害の防備、生活環境の保全・形成等、特定の公益目的を達成するため、農林水産大臣又は都道府県知事によって指定される森林です。保安林では、それぞれの目的に沿った森林の機能を確保するため、立木の伐採や土地の形質の変更等が規制されます。

山地災害の危険信号を見逃すな!

8つの危険信号に注意して下さい。

山地災害が起こる場合、山の斜面や川の流れをよく観察してみると、多くは事前に危険信号と思われる変化がキャッチできます。特に次の8つの危険信号に注意して下さい。

- 川がにごった**
川がにごり、木の枝などが露ざりしはじめた
もしかして、上流で山くずれが起きる?
- 水位が下がった**
雨が降り続けているのに川の水位が下がった
もしかして、山くずれが川の急な増水を引き止め、ほんまの危険が
- 亀裂が走った**
山の木が傾いたり斜面に亀裂が走った
もしかして、地すべりや山くずれの前兆かな?
- 石が落ちてきた**
山の斜面から石が転がり落ちてきた
もしかして、山くずれの前兆かな?
- わき水が止まった**
今まであったことのないわき水が止まった
もしかして、地下水の流れが変わり、地すべりの前兆かな?
- わき水が増えた**
わき水の量が急に増えた
もしかして、地下水の流れが変わり、地すべりの前兆かな?
- 井戸水がにごった**
普段澄んでいる沢や井戸の水がにごってきた
もしかして、上流の山の山くずれの前兆かな?
- 地鳴りがする**
地鳴りの音が聞こえてきた
もしかして、山くずれの前兆かな?

危険信号をキャッチしたら 山くずれなどのおそれがある箇所では、テレビなどの気象情報に注意しましょう。

- すぐ避難!** 危険を感じたり、役場等から連絡があったら早めに指定された場所へ避難しましょう!
- すぐ通報!** 災害が起こったら、すぐに110番か119番に通報しましょう!
- あぶない!** 災害の危険がある場所には近づかないようにして下さい!
- ふだんから** 家族や地域ぐるみで山くずれのおそれがある場所や避難場所について話し合うとともに、実際に自分の目で確認しておきましょう。

第30回 森と花の祭典—「みどりの感謝祭」 “感じよう みどりの恵みと 木のぬくもり”

毎年4月15日から5月14日は、多くの人たちに「みどり」について理解と関心を高めてもらうため「みどりの月間」と定められています。

みどりの月間の期間中には、全国各地で緑に親しむ緑化行事が各種開催されていますが、その締めくくりとして森と花

の祭典、「みどりの感謝祭」が開催されています。

今年はコロナ禍のため、感謝祭関連の式典が中止されましたが、一方で、オンライン「みどりとふれあうフェスティバル」がみどりの月間の期間中、ウェブサイト上で開催されました。

第30回森と花の祭典
みどりの感謝祭
感じよう みどりの恵みと 木のぬくもり
ONLINE
みどりとふれあう
フェスティバル
開催期間
2021 4/15 Thu ▶ 5/14 FRI
今年はウェブで開催！
みどりの感謝祭は、4月15日～5月14日のみどりの月間の締めくくりにあわせて、
日本林業振興会において「みどりとふれあうフェスティバル」を開催し、
多くの人が喜び、緑の恵みを体感することで国土緑化運動の一環の推進を図ることを目的としています。
これまで日本林業振興会において開催してきましたが、
このコロナ禍の下、みどりとふれあいたいという多くの皆さまのご要望をいただき、
今年以降はオンラインで開催することとなりました。
全国の多くの皆様のご参加をお待ちしています。
イベント情報 出展団体 フォトコンテスト 動画
https://midorinokanshasai.com/
みどりの感謝祭運営委員会
後援
お問い合わせ



【イベント情報】芽吹き滝(岐阜)



【イベント情報】Tsumugi料理教室！(山梨)



【動画】山の日アンバサダートークショー

このサイトでは、①イベント情報、②出展団体、③フォトコンテスト、④動画の以下の情報を紹介されました。

- ① 「イベント情報」では、「みどりの月間」を中心に8月末頃まで行われる緑に関する各種イベント情報が掲載されました。全国各地で、植樹祭、森林作業体験、竹林整備、どんぐり苗里親、木工体験、森での伝統料理や郷土料理づくり、森ヨガ、森林セラピー、ウェルネス森林浴、MTB 体験、登山道整備、自然観察、農作業手伝い、エコフェスタなど様々な行事が開催されました。まだこれから開催される行事もありますので、是非、参加してみたい方はいかがでしょうか。
- ② 「出展団体」では、これまで感謝祭に出展いただいていた各団体の概要や活動が紹介されました。
- ③ 「フォトコンテスト」では、「みどりとふれあう」をテーマ

に、Instagramでのフォトコンテストが開催されました。多数の応募作品から「最優秀賞」「優秀賞」「佳作」「出展団体賞」が選定されました。

- ④ 「動画」では、2020 年度ミス日本みどりの女神のレポート、近藤謙司氏(登山家)×貫田宗男氏(登山家)×ユーチューバーかほさんによる「山の日アンバサダートークショー」などが掲載されました。

また、サイトのニュースページにて、緑や森林に関して顕著な功績のあった方に贈られる「みどりの文化賞」をはじめ、式典で表彰、苗木を受領予定だった方々が紹介されました。

なお当サイト(<http://midorinokanshasai.com/>)は今年8月まで公開予定ですので是非御覧ください。





「作業安全のための規範」の策定等について

農林水産業・食品産業の現場は、他の産業と比べても事故の発生率が高い傾向にあります。このため、農林水産省では有識者による会議を設置し、作業安全のための対策を議論し、今般、事業者や事業者団体の方々に日々留意し実行していただきたい事項を整理した「農林水産業・食品産業の作業安全のための規範」を策定しました。

本規範は、農林水産業等に共通する基本的な「共通規範」と、林業・木材産業ごとの「個別規範」からなり、それぞれ「事業者向け」及び「事業者団体向け」に整理しています。

共通規範

共通規範は、事業者向け、事業者団体向けに、それぞれ4項目を示しています。事業者の方々には、普段目に付く場所に掲示する「標識」も作成していますので、是非ご活用ください。

個別規範

個別規範は、林業・木材産業に携わる現場の事業者や事業者団体の方々に取り組んでいただきたい事項を、より具体的に示しています。

また、各取組の必要性や具体的内容等を記載した「解説資料」と取組状況を点検できる「チェックシート」を用意しています。

利用方法

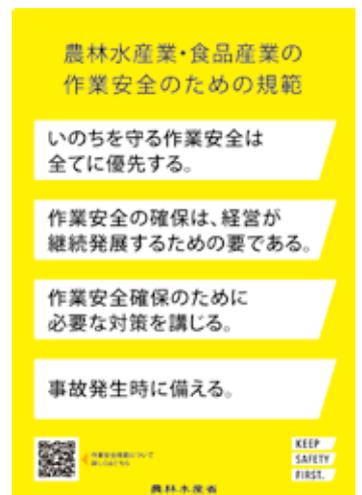
現場での意識向上を図るため、作業場や事業所に掲示していただくことにより、不断の意識付けを図ることができます。

「解説資料」は従業員や会員事業者を対象とした研修のテキストとして利用してください。また、定期的に「チェックシート」を活用して、各現場での安全対策の取組状況を点検してください。

農林水産省では、作業安全対策への理解や取組への参画を促進することを目的に、作業安全啓発ポスター、安全確認ステッカー及び映像コンテンツ等の研修資料を作成しています。事業者、事業者団体の関係の皆様におかれましては、規範とともに、これらのツールを是非ご活用ください。

林野庁補助事業を利用される方へ

「緑の雇用」事業で新規就業者の研修を行いたい場合、木材加工流通施設の整備について補助を受けたい場合など、林野庁補助事業を申請される事業者の方々には、本規範に基づく取組を要件としていますので、該当する業種の「チェックシート」の提出をお願いしています。令和3年度事業から多くの補助事業で申請の要件としていますので、各事業担当者へご確認ください。



▲事業者向け共通規範の標識



安全確認ステッカー



研修資料



App Store



Google Play

※規範に関する情報は、以下の農林水産省・林野庁ウェブサイトをご覧ください。

農林水産省ウェブサイト

https://www.maff.go.jp/j/kanbo/sagyou_anzen/index.html



林野庁ウェブサイト

<https://www.rinya.maff.go.jp/j/mokusan/seisankakou/anzenkiban.html>





エリートツリーの開発と「特定母樹」の指定

林木育種センターでは、林業の生産性の向上等を目的として成長が早いなど優れた特性を持つエリートツリーや、花粉症対策品種やマツノザイセンチュウ抵抗性品種など優良品種等の品種改良に取り組んでいます。本稿では、エリートツリーの開発等の取組について紹介します。

精英樹は品種改良のもと

国の事業としての林木の品種改良(林木育種)は、昭和29年から始まりました。先ず初めに、成長がよく、幹がまっすぐで、病気や虫の害がない、優れた樹木が全国で約9,100本選抜されました。それらを「精英樹と呼んでいます。次に、それらの精英樹の(遺伝的な)特性を調べるために全国各地の国有林・民有林に2,000箇所以上の試験林(検定林)が造られました。これらの試験林において、5年ごとに定期的に調査を行い、精英樹の特性を明らかにしました。これらの精英樹は、現在の品種改良のもととなっています。

エリートツリーの選抜の流れ

長年の試験林の調査結果に基づいて、精英樹の中でも成長等の特性が上位のもの



写真1 精英樹を母樹として交配・育成した苗木を植栽した試験地
このような試験地からエリートツリーを選抜します。

を母樹として交配・育成した、精英樹のごどもの苗木の試験林(写真1)を造ります。そして、この精英樹のごどもの試験林でさらに成長を調査し、それらの中でも特に成長等が優れているものをエリートツリーとして選抜しました(写真2)。当初の精英樹を第一世代とすると、精英樹を交配し

て育成したごどもの苗木は第二世代にあたりますが、それらの中で特に優れたものだけがエリートツリーとなります。エリートツリーの選抜は平成24年から始まり、令和2年度末現在、1,054本が選ばれています。今後は、エリートツリーの交配により、さらに成長等に優れた第三世代の選抜にも取り組んでいきます。

エリートツリーの成長特性

エリートツリーは、従来の種苗より成

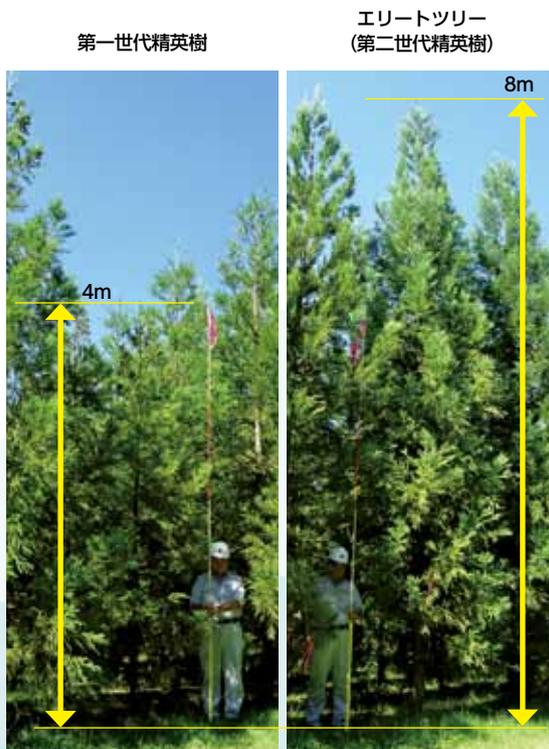


写真2 第一世代精英樹(左)とエリートツリー(右)
第一世代精英樹は樹高4mに対して、エリートツリーは植栽7年で樹高8m。

長が優れているため、通常植栽から5年程度毎年必要となる下刈り作業を1〜2年程度早く終えることができ、これに要するコストの低減が期待できます。このほか、伐期の短縮による収益性(年利)の改善にも期待できると考えられます。

そこで、エリートツリーの種子から育成した苗木に、どれくらいの成長特性があるのかを調査するために、実際の林地において植栽試験を進めています。以下に、植栽試験の4つの事例を紹介します。

(1) 関東育種基本区での

植栽試験の結果

エリートツリーの実生苗を関東育種基本区の3箇所の試験地に植栽し、成長を調査、解析しました。図1はそれらの樹高の推移を示しています。エリートツリーの

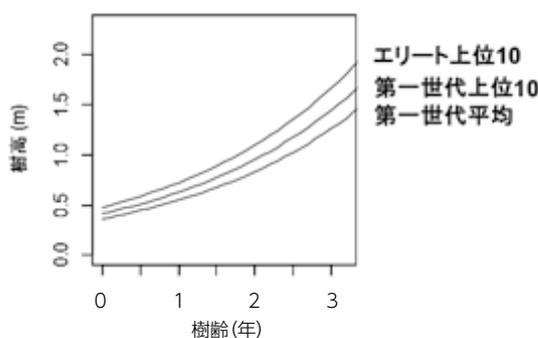


図1 関東育種基本区におけるスギエリートツリー植栽試験での樹高の推移

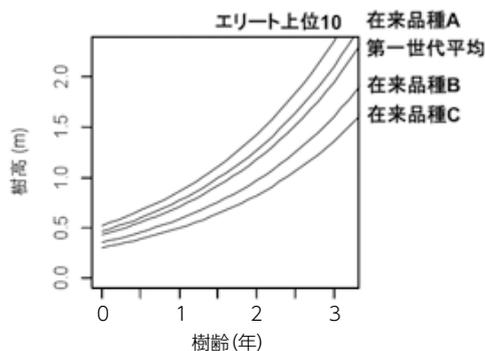


図2 九州育種基本区におけるスギエリートツリー植栽試験での樹高の推移



写真3 群馬県みどり市に設定したスギエリートツリーの植栽試験地
写真は植栽5年後に撮影したものを。



写真4 宮崎県宮崎市に設定したスギエリートツリーの植栽試験地
写真は植栽3年後に撮影したものを。

位10種類は、植栽3年後に平均樹高が約2mとなり、第一世代精英樹の平均より約3割上回っていました。また、同じ試験地に植栽された第一世代精英樹の上位10種類と比較してもやはり優れていました。

(2) 九州育種基本区での

植栽試験の結果

九州地域では、さし木造林が広く行われており、多くの在来品種が普及しています。このため、エリートツリーのさし木苗を九州育種基本区の8箇所の試験地に植栽し、成長を調査、解析しました。図2はそれらの樹高の推移を示しています。この試験地では、第一世代の精英樹のほかに、在来品種3種類を比較のため植栽しました。エリートツリー上位10種類は、植栽3年後に平均樹高が2m以上となり、第一世代精英樹の平均より約2割上回っていました。

(3) 群馬県での植栽試験の結果

群馬県みどり市にエリートツリーの実生苗を植栽し、試験地とし(写真3)、成長を調査しました。植栽5年後のエリートツリーの平均樹高は3.7mで、隣接林地に植栽した従来種苗(平均樹高3.0m)と比較して約2割上回っていました。

(4) 宮崎県での植栽試験の結果

宮崎県宮崎市にエリートツリーのさし木苗を植栽し、試験地とし、成長を調査しました。植栽3年後には、写真4のとおりエリートツリーは第一世代精英樹よりも優れた成長をしていましたが、その後、差は年々大きくなり、植栽5年後のエリートツリーの平均樹高は5.4mに達しました。

「特定母樹」としての指定

森林による二酸化炭素吸収量の最大化

を図るため、平成25年に「森林の間伐等の実施の促進に関する特別措置法」(間伐等特措法)が改正され、特に優良な種苗を生産するための種穂を採取する樹木で成長が特に優れたものを農林水産大臣が「特定母樹」に指定する制度が創設され、令和3年には成長に優れた苗木を積極的に用いた再造林を計画的かつ効率的に推進するための措置が追加されました。林木育種センターでは、エリートツリー等を特定母樹へ指定するよう申請し、令和2年度末現在、スギ、ヒノキ、カラマツ(グイマツ)、トドマツで345種類が指定されています。林木育種センターは、今後更に申請を進め、指定を増やすとともに、エリートツリーが実際の林業の現場で広く活用されるよう普及に取り組んでまいります。次回は、こうした普及の取組等について紹介いたします。

今回紹介した植栽試験の成果は、茨城森林管理署、静岡森林管理署、熊本南部森林管理署、福岡県農林業総合試験場資源活用研究センター、熊本県林業研究・研修センター、大分県農林水産研究指導センター林業研究部、宮崎県林業技術センター、鹿児島県森林技術総合センター、群馬県みどり市、森林整備センター九州整備局との共同試験により得られたものです。関係者の皆様にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

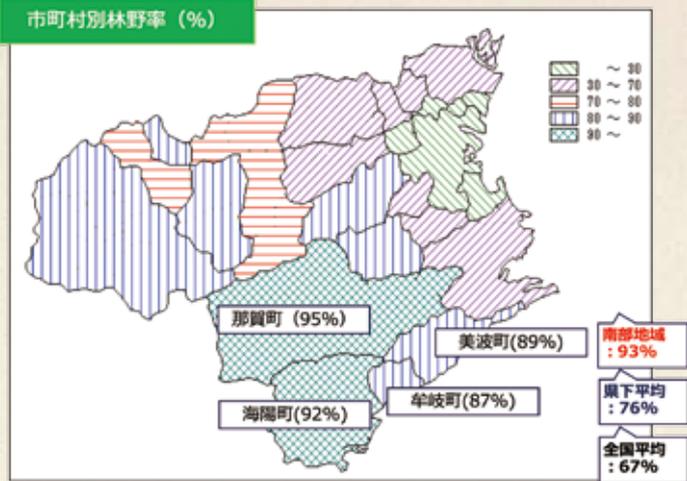
徳島県南部地域

県南部の林業成長産業化と 森林管理の新たな取組

1 南部地域の概要

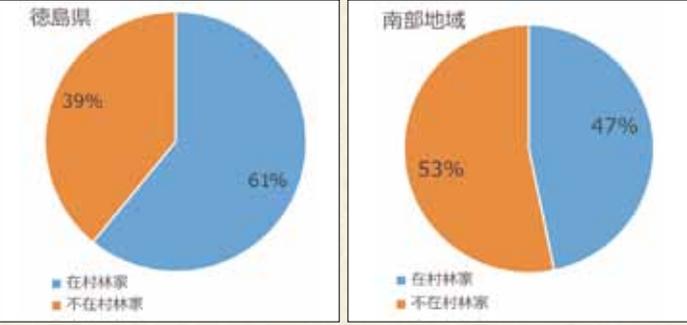
徳島県南部地域は、那賀町、美波町、牟岐町、海陽町の4町で構成され、総土地面積は約12万2千haでうち森林面積は約11万3千ha、林野率は93%と県内でも非常に高い地域です（林野率全国平均：67%、徳島県76%）。この森林のうち私有林人工林は約6万3千haで県内の

41%を占め、樹種はスギが約6割となっています。気候も温暖で、年間降水量が2,500mm〜3,500mmと恵まれています。生産される木材は古くから県内はもとより関西方面へ出荷する木材の一大産地です。徳島県は製材・木材加工業も盛んな地域でしたが、住宅における建築様式の変化や、木造住宅着工戸数の減少などにより、平成初期から平成20年頃まで県産材生産量、需要量の減少が続きました。



単位：人、ha	総人口	土地総数	森林面積	林野率	私有林人工林	私有林人工林率
那賀町	8,209	69,498	65,958	95%	39,583	60%
美波町	6,938	14,080	12,486	89%	4,946	40%
牟岐町	4,182	5,662	4,900	87%	2,101	43%
海陽町	9,191	32,765	29,985	92%	16,547	55%
南部地域	28,520	122,005	113,329	93%	63,177	56%

徳島県南部地域の概要



木材価格の低迷や過疎化の進行により、不在村の森林面積が増加
南部地域においては過疎化等の要因により森林面積の半数以上が不在村

森林所有者の在村・不在村別状況

県南部の林業成長産業化と森林管理の新たな取り組み

目標生産量 5万m³/年

伐期を迎えた人工林の課題解決により → モデル実施により地域外へ波及効果

新たな森林管理システムによる事業確保

那賀町・美波町・牟岐町・海陽町

事業代行 徳島県森林の会

ウッドソリューションセンター

【機能】

- 山の相談窓口
- 森林バンク機能
- 経営相談実施
- 再資源化の推進
- 自伐林家等相談窓口

【主メンバー】

- 公益社 徳島森林づくり推進機構、徳島森林組合
- 徳島県森林管理サポートセンター、本県森林組合

【業務内容】

- 町の業務を代行
- 個別の意向調査を実施
- 森林情報の一元的な集約、環状調査
- 経営管理できない森林を抽出、処分
- 権利確認、同意取り付け作業

人工林集約のためのソフト整備

- モデル集約地を指定
- 伐期を迎えた人工林の集約モデル
- 林業ICT推進
- ドローン活用（高効率伐採）
- ドローン導入など
- ソリューションセンターの活用（ドローン活用）

林業成長産業化徳島モデル

増加の効果 約5万m³

森林タイプの再編成と雇用による活性化モデル

林業会社7社

雇用人数 125人

木材生産 125ha

植林・保育

加工・流通

海外輸出

大径材向け輸入

大径材向け輸出



2

成長産業化への取組とその背景

このため、国や徳島県により国産材(県産材)の生産量を拡大させる施策が実施され、現在では大型の製材工場、合板工場、MDF工場、木質バイオマス発電所や中小の製材工場等との協定取引などにより、国産材(県産材)の生産量や自給率も回復してきました。県内での木材生産量を拡大させることで、地域の林業木材産業の活性化を一層促進したいとの考えから「成長産業化モデル事業」に取り組むこととなりました。

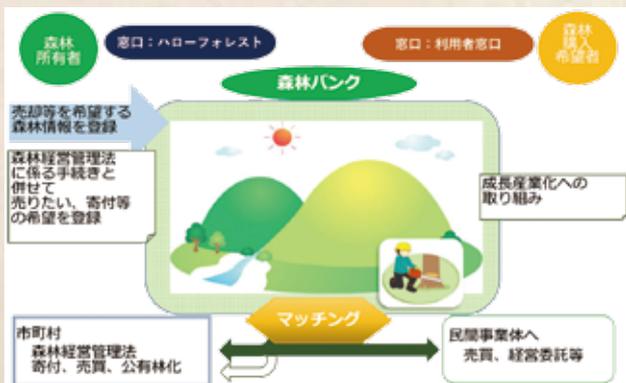
1) 森林所有者対策

「ハローフォレスト・森林バンク」の設置

この地域では、森林面積の53%が不在村者の所有であることや所有者の高齢化が進んでいることから、林業の成長産業化を図るためには「森林経営管理制度」を推進し、森林所有者を特定し、今後の経営の意向確



森林経営管理制度の一斉説明会(平成31年3月24日(日)開催場所:那賀郡那賀町)



とくしま森林バンクの概念図



ハローフォレストの意向登録の実績 (R2.12 現在)



ドローンによる資材の運搬実証の様子

認が重要でした。このため、意向調査や森林経営の相談窓口となる「ハローフォレスト」を設置し、ここが中心となり制度を広報(PR)する説明会を複数回開催しました。那賀町と海陽町で開催した初回では、どちらも会場の収容人数を遙かに超える方に参加いただき、両会場ともに急遽2回に分けて説明を行うこととなりました。会場に来られた方の中には、関西や中部地方から来られた方もおられ「意向調査をするなら早くやって」「市町村に委託するより売りたい」などの意見も寄せられました。これらの意見を受け、「森林経営管理制度」では対象にしない「売買」「寄付」の意向にも対応し、売却や購入等を希望する森林情報を登録し、両者のマッチングにつなげる仕組みである「森林バンク」を設置しました。

2) 木材生産コストの削減と造林拡大対策

徳島県が平成17年度から進めている数次の「林業プロジェクト」では、間伐、主伐の生産コスト削減のた

めの機械化を進め、「ハイランダー(運搬機能を有するハーベスタ)や「大型フォワーダ」の実証を行いました。またモデル事業では、主伐に伴い必要な造林対策として、ドローンによる苗木や獣害防止資材の運搬や造林専門組織の結成の検討を進めています。

3

今後の取組と地域の将来像

令和3年度からは新たに、大径木の需要拡大や公共施設等への木材利用を促進するため、地方公共団体や林業関係団体、建築士関係団体などが組織する「徳島県木造住宅推進協議会」との連携をはじめました。鉄筋コンクリート造の小学校の玄関や教室の一部について、内装の木質化を実施し、小学生や保護者、建築士や工務店などのワークショップの開催を検討しています。

地域にある資源を活かした地域や産業の活性化を進めていくため、今後も様々な業界、関係者と連携を深めた取組を推進していきます。

虹の松原におけるクロマツの再生・保全の取組

～白砂青松・虹の松原の再生を目指して～

九州森林管理局 佐賀森林管理署

はじめに

「虹の松原(写真1)は、佐賀県の北西部に位置し、玄界灘に面した唐津湾に沿って造成された、幅約500m、長さ4・5kmにも及ぶクロマツを主体とする広大な松原で、三保の松原(静岡県)、気比の松原(福井県)とともに、日本三大松原の一つに数えられています。

この松原は、およそ400年前に唐津藩の初代藩主寺沢広高が、潮風や飛砂から田畑や家を守るために海岸の砂



写真1 虹の松原【佐賀県唐津市】



写真2 クロマツと白砂のコントラスト

丘にクロマツの植栽を命じたのがはじまりと言われています。かつてはその長さにちなんで「二里の松原」と呼ばれていましたが、その後成林し、湾に沿って弧状に続く、緑のクロマツとこれを縁どる海岸の「白砂」、唐津湾の「青い海」のコントラストからなる景色(写真2)を空にかかる虹に例え、明治時代の頃から「虹の松原」と呼ばれるようになりました。

明治2年からは国有林として管理されており、防風保安林や潮害防備保安林として、唐津湾から吹く海風から後背地の人家、鉄道、田畑などを守っているとともに、その優れた景観から国

管内概要

佐賀森林管理署は、佐賀県内全域を管轄区域とし、9市7町に所在する国有林野(約1万5千3百ha)を管理しています。

管内は、佐賀県北部には背振山、九千部山、金立山などが連なる背振山系があり、南部には経ヶ岳、多良岳などからなる多良山系、その他背振山系の南に位置する天山から金立山に至る天山山系と武雄市から白石町に連なる杵島山系と唐泉山系からなる丘陵性の山系があります。多良山系には県内最高峰の経ヶ岳(標高1,076m)が鎮座しており、春から夏にかけてはツクシヤクナゲやオオキツネノカミソリ、秋から冬には紅葉したカエデや樹氷を見ることができるとともに、1年を通じて自然を楽しむことができます。



所在地	佐賀県佐賀市成章町2-11		
区域面積	244,070ha	うち森林面積	110,195ha
うち国有林	15,307ha (国有林率 14%)		
管轄区の関係市町村	9市7町(佐賀市、唐津市、鳥栖市、伊万里市、武雄市、 鹿島市、小城市、嬉野市、神埼市、吉野ヶ里町、基山町、 上峰町、みやき町、有田町、白石町、太良町)		

基礎データ

の特別名勝や玄海国定公園、風致探勝林に指定され、名勝地として地域の振興に大きな役割を果たしています。

今回は、佐賀森林管理署（以下、「当署」という。）が、地域と連携して取り組んでいる「虹の松原」の再生・保全の取組について御紹介します。

虹の松原の荒廃



白砂青松の虹の松原では、かつて、マツの落葉や落枝を家庭の燃料として使うため、地域住民による松葉掻きが頻繁に行われていました。一般に、マツは痩せた土地に生育するため、松葉掻きによって地表の落葉が採取されることで、松原が維持される効果がありました。しかし、昭和30年代以降、燃料革命によって灯油やガスが急速に普及し、生



写真3 松くい虫防除のため、薬剤を空中散布



写真4 松くい虫防除のため、薬剤を地上散布



写真5 松葉掻きの様子（令和元年5月12日）



写真6 ボランティアの皆さん

注）アダプト方式とは、担当する活動エリアを登録し、都合の良い時期に主体的に取り組んでもらう方法。

活様式の変化とともに松葉掻きが行われなくなった結果、マツ林の地表には落葉が溜まり、広葉樹や草本類の侵入・繁殖が目立つなど、景観の荒廃が危惧されるようになってきました。さらに、昭和40年代になると松くい虫による被害が年々拡大し、平成4年のピーク時には2,334本が被害を受けるなど、松くい虫防除対策も重要な課題となっており、対策を講じてきました。

地域と連携した再生・保全の取組



当署では平成19年に、地域からの意見や要望を踏まえながら「虹の松原保全・再生対策基本計画」を策定し、①防災機能の維持、②松くい虫防除、③景観の保全の観点から計画的な取組を

進めています。

松くい虫被害から松原を保全するため、当署では、佐賀県や唐津市など地元との協力と理解を得て、予防対策として薬剤を空中・地上散布（写真3、4）、樹幹注入、また駆除対策として被害木の伐倒駆除を実施しています。さらに、5月には「被害木総点検」として、ボランティア団体や地元の子生、関係行政機関の協力を得て一斉調査を行うなど、被害木の早期発見・駆除に努めています。こうした取組の結果、近年はピーク時の十分の一程度の低い水準で被害を抑えることができています。

また、広大な松原の景観を維持していくためには多大なマンパワーと継続的な取組が必要となることから、当署は、佐賀県や唐津市、CSO（市民社会組織）等からなる「虹の松原保護対策協議会

（会長：唐津市長）と協定を結び、地域住民の方々や企業と協働して、イベントの開催やアダプト方式^⑤を採用したボランティアによる松葉掻き（写真5）などの保全活動を実施しています。イベントには毎回多くの方に参加いただき、アダプト登録者も年々増加するなど、地域主体の再生・保全活動が展開されています（写真6）。

最後に



先人から受け継がれてきた貴重な財産として、白砂青松の虹の松原を後世に残していくため、当署では、引き続き地域の方々や関係行政機関と協働し、虹の松原の再生・保全に取り組んでいきます。



ウッドデザイン賞の募集始まる



JAPAN WOOD DESIGN
AWARD 2021

「ウッドデザイン賞2021」の募集が、6月21日(月)から始まります。

「ウッドデザイン賞」は、木の良さや価値を再発見できる製品や取組について、特に優れたものを評価し、表彰する制度です。「木のある豊かな暮らし」が広がり、日々の生活や社会が彩られ、木材利用が進むことを目的に始まり、今年で7年目を迎えます。

同賞は、木を使って暮らしの質を高める「ライフスタイルデザイン部門」、人の心を豊かにする「ハートフルデザイン部門」、地域や社会を活性化する「ソーシャルデザイン部門」の3つの部門から構成され、審査を通過した作品に「ウッドデザイン賞」が授与されます(10月中旬発表)。さらに、この中から特に優れた作品には、「最優秀賞」、「優秀賞」、「奨励賞」が授与されます(11月中旬)。

応募期間は、7月30日(金)までとなっています。新しい「木づかい」や「ウッド・チェンジ」につながる取組について、みなさまからのご応募をお待ちしております！

応募はこちらから！



ウッドデザイン賞公式HP：<http://www.wooddesign.jp>

応募方法：ウッドデザイン賞公式HPより、応募者登録の上、専用フォームより応募作品をエントリーください。

応募期間：6月21日(月)10:00～7月30日(金)18:00

審査費用：無料(一次：書類審査 二次：現物等審査)※現物送付等の経費は応募者負担となります。

同時募集！

「あなたのおすすめウッドデザイン」を教えてください

ウッドデザイン賞2021は、自らの応募だけでなく、「こんな作品はウッドデザイン賞にふさわしいのではないか」「消費者目線を持った新しい木の活用をしているのではないか」とみなさまが考える、建築・空間、木製品、取組などをご紹介いただき、更なるご応募につながる取組を行っています。ウッドデザイン賞公式HPの専用フォームより、あなたのおすすめウッドデザインをぜひご紹介ください！(6月30日まで)



ウッドデザイン賞 2020 最優秀賞 (農林水産大臣賞)
有明体操競技場

(株式会社日建設計 (東京)、清水建設株式会社 (東京)
(公財) 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 (東京))



ウッドデザイン賞 2020 優秀賞 (林野庁長官賞)
木硯

(YOAKE (福岡県)、TAWARA (福岡県))

特別賞以上の受賞作品はエコプロ2021にて表彰・展示の予定です。(令和3年12月8日～10日 会場：東京ビッグサイト)
その他の展示機会や入賞作品集の配布等により広報・PRを行います。

(問い合わせ先)

ウッドデザイン賞運営事務局

メール: info2021@wooddesign.jp URL: <http://www.wooddesign.jp>

Facebook: <https://www.facebook.com/wooddesignaward/>

※応募に関する詳細、その他各種情報は、上記ウッドデザイン賞公式HP及びFacebookにおいて随時配信しております。

また、過去のウッドデザイン賞受賞作品につきましても、HP内ウッドデザイン賞受賞作品データベース

(<https://www.wooddesign.jp/db/>)に掲載していますので、ぜひご覧ください。

URL

Facebook





みどりの 女神が行く!

ミス日本みどりの女神
こばやし ゆうき
小林 優希

皆さま、こんにちは！2021ミス日本

「みどりの女神」の小林優希です。

先月号で触れました、NHK連続テレビ小説『おかえりモネ』の放送がついに始まりましたね！「ここ行ったところだ」「これ見たことあるー」など、毎日の放送に自分の知見のあるところが出てくるので、ワクワクと心を踊らせながら見ております。

林野庁ウェブサイトでは、ドラマの内容に合わせて林業を解説しています。こちらにも私の楽しみになっております！

以前視察した登米市の森林組合の方から、嬉しいお知らせがありました。なんと『おかえりモネ』の影響を受けて、連日観

光に来るお客様が増えているのだとか。どこかで素敵なところばかりですので、皆さまもコロナが落ち着きましたら是非、行ってみてくださいね。

さて、5月の私の活動を報告いたします！

岐阜県でチャンネル国土緑化の撮影に参加

一つ目は岐阜県揖斐郡にて、チャンネル国土緑化の「日本全国みどりを育む現場のいま みどりと清流の国・岐阜県を訪ねて」の撮影を行いました。

岐阜県は、県域の8割を森林が占めており、世代を越えた木々の手入れに注力されているそうです。そのシンボルとも言えるのが、撮影で訪れました天皇林公園です。天皇林公園では、昭和32年（1957年）4月の全国植樹祭にて、昭和天皇と香淳皇后がスギの苗木をお手植えされたとのこと。そのスギの苗木は、現在の上皇さまや天皇陛下が世代を越えてお手入れをされ、60年以上の時を経て、空高く伸びる立派な木に成長しています。

「植える・育てる・伐る・使う」のサイクルが確立されているのも、岐阜県の林業の魅力の一つです。もう一つの撮影場所の谷汲緑地公園には、県産材で作られたアスレチックがありました。そのアスレチック



▲木のアスレチックで遊ぶ子狸たち

で遊ぶ子供達を「子狸」と呼ぶのだそうです。幼い頃から県産の木々と触れ合い、木の温もりを感じながら成長する子狸たちと、彼らを町全体で見守る温かさを肌で感じました。

雨の中行われた、とうきょう林業サポート隊のポスター撮影

二つ目は、とうきょう林業サポート隊のポスター撮影です。あいにくの雨の中での撮影でしたが、東京都森林組合をはじめとした皆さまのご協力により、無事撮影を終えることが出来、ホッと一安心しております！

とうきょう林業サポート隊では、毎年東京の森づくりを促進するためのメンバーを募集しています。先述した「植える・育てる・伐る・使う」のサイクルを整えるためには、

森づくりをサポートしてくれる人材が必要です。実際に作業をしているようなシーンを撮影することで、初心者でも作業のノウハウを学ぶことが出来るということをお伝え出来ればと思っております。

私がみどりの女神の活動を始めて2ヶ月が経ち、徐々に友人が林業界に興味を持つようになりました。「森に行くの、楽しそう」「活動の報告を見るのが楽しみ」といった言葉を受け取るようになりました。この調子でもっと多くの方に林業界の魅力をお伝えできるよう、頑張つてまいります！



▲ヘルメットと下刈鎌を持って撮影！

●チャンネル国土緑化
<https://www.green.or.jp/channel/index.php>



●林野庁ウェブサイト
「おかえりモネ」解説ページ
https://www.rinya.maff.go.jp/j/kouhou/kouhousitu/okaeri_mone.html



KIKIGAKI

20th

聞き書き甲子園

ニッポンの深層へ。
未知の世界の
扉をひらけ。



名人に会い、森・川・海の暮らしを未来に繋ぐのはきみたちだ。

【主催】聞き書き甲子園実行委員会【協賛】読者、出版者、公益社団法人日本林業振興会、NPO法人共育の森ネットワーク【編集協力】会報発行 株式会社コアミ
【発行】公益社団法人日本林業【印刷】株式会社印刷センター【印刷】株式会社印刷センター【印刷】株式会社印刷センター【印刷】株式会社印刷センター
【印刷】株式会社印刷センター【印刷】株式会社印刷センター【印刷】株式会社印刷センター【印刷】株式会社印刷センター【印刷】株式会社印刷センター
【印刷】株式会社印刷センター【印刷】株式会社印刷センター【印刷】株式会社印刷センター【印刷】株式会社印刷センター【印刷】株式会社印刷センター
【印刷】株式会社印刷センター【印刷】株式会社印刷センター【印刷】株式会社印刷センター【印刷】株式会社印刷センター【印刷】株式会社印刷センター



<https://www.kikigaki.net> 応募〆切：2021年6月24日

FamilyMart

発行／林野庁 〒100-8952 東京都千代田区霞が関1-2-1 電話 03-3502-8111(代) F A X 03-3591-6505
編集／株式会社創言社 東京都千代田区飯田橋4-8-13 印刷／株式会社コームラ 岐阜県岐阜市三輪がりとびあ3

リサイクル適性(A)
この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。

本誌に使われている紙は、
日本の森林を育てるために
間伐材を積極的に使用しています。

「林野」は林野庁 HP でもご覧になれます。詳しくは

情報誌 林野

検索

